

秋の彼岸によせて

令和五年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

皆さま、今年の暑さは、どのように感じられましたでしょうか!?
灼熱!! 熱風!!

地球温暖化対策は、世界中の科学者が長い年月をかけ、膨大なデータを収集、分析し、国連や首脳会議の場で、警告と対策を提言し続け、また、世界の多くのメディアも「悲鳴をあげている地球」の実態を伝えようと番組を制作し、より多くの人に警鐘を鳴らしてきました。

一方、そのような研究、分析は間違いであると嘯く政治家や企業人も存在します。

あらゆる情報が錯綜し、それぞれの主義、主張に対して、正しい議論もあります。なかには、単なる個人への誹謗中傷となっているものもございます。正しい情報や議論なのか、あるいは、ただの感情の吐口なのか、今、私たちには、メディアから流れてくる情報を「鵜呑み」にするのではなく、正しい情報を「読み解く力」が求められています。

無限にある情報のなかで、自分に必要なものはなにか? 改めて考える時期にきていると思います。

お釈迦さまは「耳根は乱声を聴いて、和合の義を壊乱す。是に由つて、狂心を起すこと、なお痴かなる猿ごうの如し」と説いておられます。

人間が聴き取ることができない「声」は、噂話や愚痴のような乱れたものしか聴き取れず、仲良く和義の心で過ごしている日常を破壊してしまい、己の心も、皆の心も狂った心を呼び起こすこと、それは、既に人間の姿ではなく、愚かな猿以下の姿であると申されています。

人間は、どれほど和義の心を持たせて頂いて、生まれさせて頂けるものなのでしょうか。

今、世界のリーダーが、この和義の心を持っていけば、と思う反面、人間はやはり、乱声しか聴こえないのだと改めて実感致します。

三千年のときを経ても、人として、最も心せねばならぬことは、「変わることはない」ということです。いくら多くの知識や富を得たとしても、それらを生かすだけの「智慧」がなければ、より多くの生きとし生けるものを正しく「幸い」に導くことはできないということです。

秋の彼岸、尊いご先祖さまの墓前に参拝させて頂き、感謝とご報告をさせて頂き、己に気づきを頂きたいと謙虚な時間を過ごすことも、今は、大切なのではないのでしょうか。

ご先祖さまに守って頂いた命、その尊い命を皆さまは、なににお使いになられますか？

二〇二三年八月時点でウクライナへの侵略によるロシア軍の戦死者は、四万七千人。ウクライナ軍の戦死者は、一万五千人。ウクライナ市民の犠牲者は、九千五百人。それ以外でも世界では、国の治安崩壊によって、一億一千万人もの難民が「今」も苦しんでおられます。